2022年度 山梨学院大学 卒業時調査報告書

学習・教育開発センター
IR担当：潘秋静・倉澤一孝

1. 調査目的

山梨学院大学は、教育の質的転換を重視する大学として、学生に対して充実した教育を実施することを重要な使命としています。大学教育の質を保証するためには、計画（PLAN）、実施（DO）、評価(CHECK)、改善(ACTION)を繰り返す、PDCAサイクルを有効に機能させることが重要です。

「卒業時調査」は、このPDCAサイクルの中で評価（CHECK）の機能として、学位記授与式において、卒業生を対象に、大学での学修を振り返ってもらうことで、本学が定めた学位授与の方針（Diploma Policy: DP）の達成度を卒業生自身に評価してもらうものです。卒業生の学修成果を把握するとともに、本学の教育活動の有用性やDPに基づく内部質保証の効果について学生から評価を求めることによって、エビデンスに基づき今後の施策を検討することを目的としてこの調査を実施しました。

2. 調査期間

2023年3月15日　学位記授与式

3. 調査方法

マークシート及びMicrosoft formsを使って実施

4. 調査項目

第1部 卒業後の進路について
第2部 大学での学習環境及び教育サービスについて
第3部 身につけるべき資質・能力について（DP の達成度）
第4部 大学学習全体の有用性
第5部 大学教育の総合評価と愛着度について

5. 調査対象

- ✓ 調査対象:全学卒業生 927 名
- ✓ 回答者数：854
- ✓ 回答率：92.1%
- ✓ 有効回答者の構成比率

学部別						
	法学部	経営学部	健康栄養学部	スポーツ科学部	国際リベラルアーツ学部	全体
回答者数	336	259	47	202	10	854
回答率	99.7%	90.2%	100.0%	98.1%	100.0%	92.1%
未回答数	41	28	0	4	0	73
未回答率	0.3%	9.8%	0.%	1.9%	0.0%	7.9
対象者数	377	287	47	206	10	927
割合	39.3%	30.3%	5.5%	23.7%	1.2%	100%

6. 調査結果

第１部　卒業後の進路について

- **全学部**

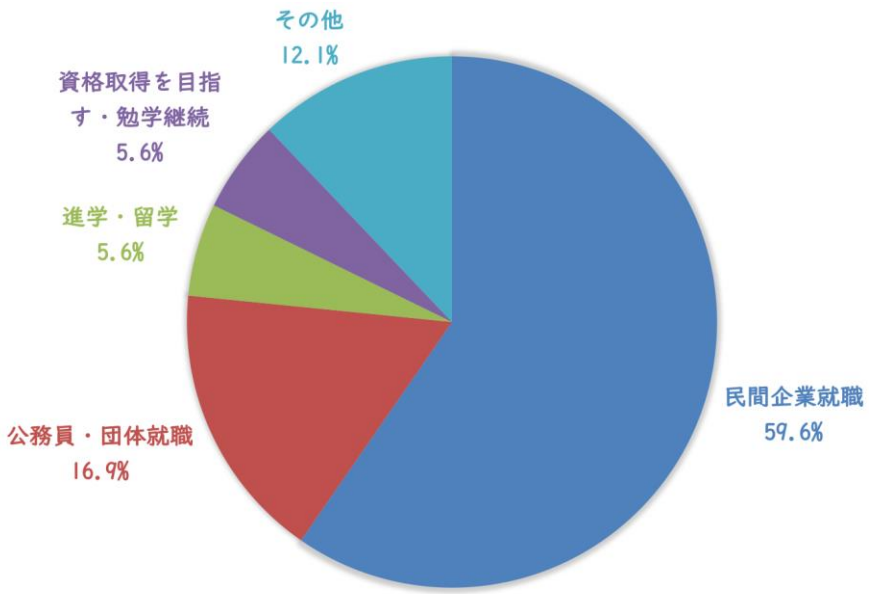
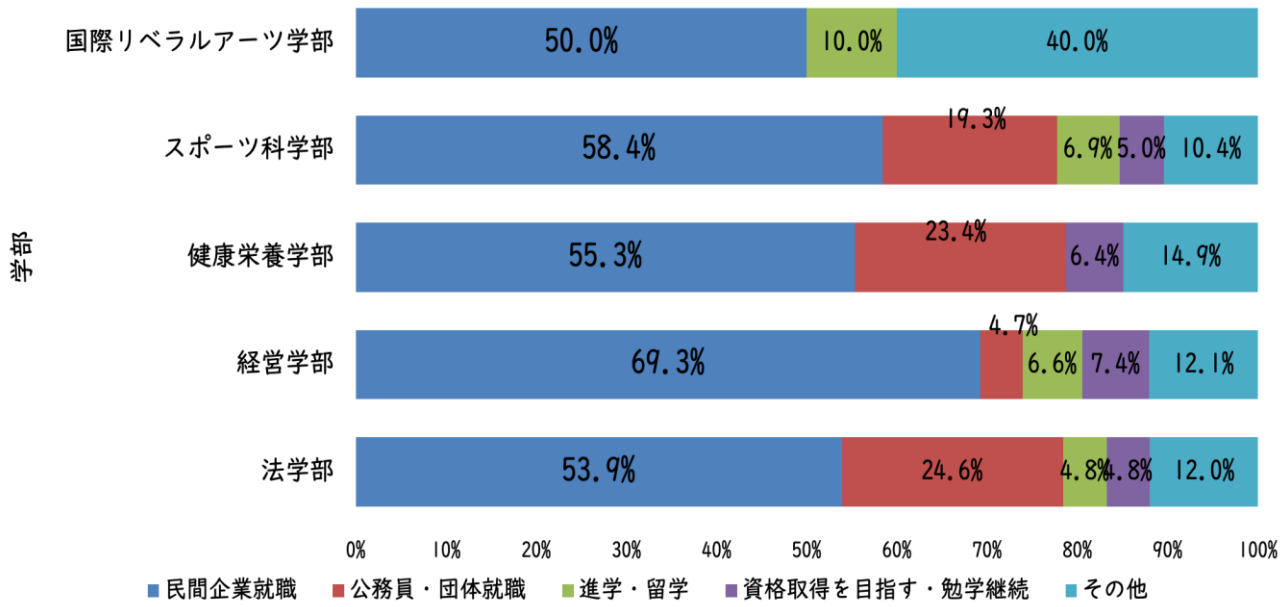


図１　卒業後の進路について（全体）

図１は「大学卒業後の希望(or 決めた)進路」を示した円グラフである。全体では、「民間企業」（59.6%）、「公務員・団体」（16.9%）、「その他」（59.6%）、「進学・留学」（5.6%）、「資格取得を目指す・勉学継続」（5.6%）の順となっている。

● **学部別に見た卒業生の進路（図２参照）**



注：カイ2乗検定　p＝.000

図2　卒業後の希望(決めた)進路について（学部別）

学部別で見ると、学部間で差がある。卒業後の進路について、まず、「民間企業就職」と考えた卒業生は、経営学部が最も多く 69.3%であり、他の４学部との間で 10.%～19.3%の差が見られる。次いでスポーツ学部 58.4%、健康栄養学部 55.3%、法学部 53.9%、国際リベラアーツ学部 50.0%の順となった。

また、「公務員・団体就職」と回答したのは、法学部が最も多く 24.6%となり、次いで健康栄養学部が 23.4%、スポーツ科学部 19.3%、経営学部 4.7%、国際リベラルアーツ学部 0.0%の順となった。法学部や健康栄養学部及びスポーツ科学科の３学部の間では大きな差はないが、経営学部と国際リベラルアーツ学部他の３学部より低い傾向が見られている。特に、国際リベラルアーツでは０人となっている。一方、「その他」を回答したのは、国際リベラルアーツが 40%となり、他の学部と比べて大きな差が見られる。

第２部 大学の学習環境や教育サービスに関する評価

以下の６つの観点から大学での学習環境や教育サービスに対する評価を尋ねたところ、「4.やや当てはまる」「5.当てはまる」の割合でランク付けすると以下の通りとなった。

表１大学の学習環境や教育サービスに関する評価

	割合	順位
素敵な先生に出会うことができた。	84.6%	第1位
キャンパスの施設は学習環境としてよかった	78.7%	第2位
少人数・ゼミ形式の授業で学びを深められた。	78.3%	第3位
大人数の講義形式の授業で学びを深められた。	73.6%	第4位
生活・学習・経済・就職等の学生支援が充実していた。	72.8%	第5位
部活やサークル活動及び国際交流等の課外活動が充実していた。	65.1%	第6位

本学の教育サービスに対する卒業生の評価結果から、「学生と教員との繋がり」が卒業生に最も評価されていると分かった。また、卒業生に最も高く評価されている「素敵な先生に出会うことができた」という項目において、学部別で見ると、学部間で差がある。「4.やや当てはまる」「5.当てはまる」と肯定的回答したのは、健康栄養学部と国際リベラルアーツ学部が最も高く、100.0%を達した。次いてスポーツ学部 90.1%、経営学部 85.3%、法学部 78.2%の順となった。

一方、部活やサークル活動及び国際交流等の課外活動の充実度は、全ての評価項目の中で最も低い評価となっている。学部別で見ると、学部間で差がある。「4.やや当てはまる」「5.当てはまる」と肯定的回答したのは、スポーツ科学部が 79.7%で最も高く、法学部 64.0%、国際リベラルアーツ学部 40.0%の順となった。実践型人材を育成するためには、卒業前に多様な課外活動に経験させる機会を学生に提供する必要があると示唆できる。

第3部 身につけるべき能力・技能・資質（DPの達成度）に関する評価

学生に何を教えたかよりも、学生が大学４年間でどれだけ知識・技能・資質を修得し成長したかが重要であり、学生本位の教育が求められている。卒業生がディプロマポリシー（DP）に対し、どのぐらい達成したと考えているかを測定するため、本学の DP に基づき設問を設けた（図３参照）。

(1) 全体から見たディプロマポリシー全学共通（DP）の達成度

ディプロマポリシーの達成度について、卒業時には、「本学での学習生活によって、以下の知識・技能・資質などが「身についたかどうか」を卒業生に尋ねたところ、「「当てはまる」「やや当てはまる」の割合を合算すると、「計画・立案・協調・行動する力や挑戦する力がついた」が 82.8%で最も卒業生に評価されている。次いで「自己を理解し、適切な目標を設定し、達成するまでやり抜く力がついた」（82.4%）、「ものごとを批判的に吟味・検討・改善する力と自己管理をする力がついた」(81.3%)、「学んだ知識・技能を用いて、

社会の問題解決を生かす力がついた」（78.6%）、「異なる価値観を尊重し、複数の言語で周いと意思疎通・協働する力がついた」(74.3%)の順となった。全体から、７割以上の卒業生は、本学に求めたディプロマポリシーが達成されたと肯定的評価しているとうかがえた。

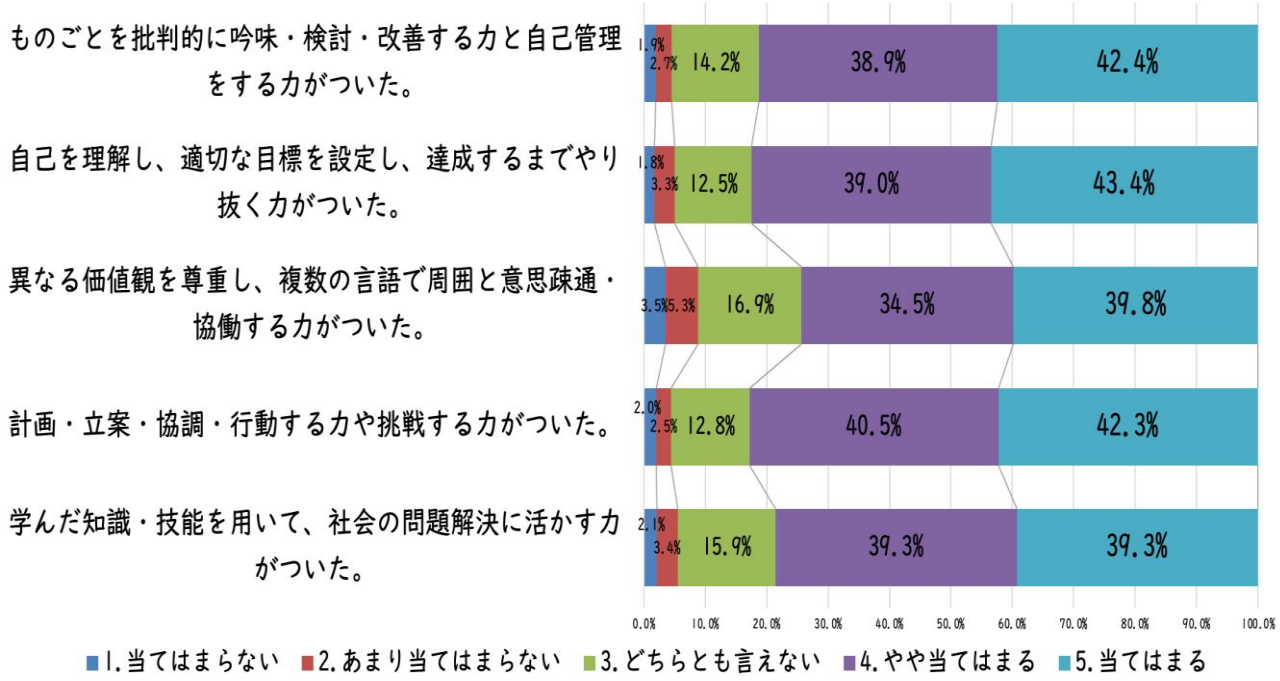


図3 身につけるべき資質・能力（DPの達成度）に関する卒業生自己評価

(2) 学部別見たディプロマポリシー（DP）の達成度

全学共通DPの達成度について、学部間でどのように異なるのか。分析に際しては一元配置分散分析を行い、有意であった場合には多重比較（Tukey法）を行った。分析結果を表2のようにまとめることができる。

表2に示すように、「学んだ知識・技能を用いて、社会の問題解決を生かす力がついた」「計画・立案・協調・行動する力や挑戦する力がついた」(健康栄養学部M=4.55＞法学部M＝4.01＆経営学部M＝4.07）、「計画・立案・協調・行動する力や挑戦する力がついた」（健康M=4.62＞法M＝4.08＆経営M＝4.19）、「自己を理解し、適切な目標を設定し、達成するまでやり抜く力がついた」（健康M=4.60＞法M＝3.96＆経営M＝4.05）、「ものごとを批判的に吟味・検討・改善する力と自己管理をする力がついた」（健康M=4.57＞法M＝4.10＆経営M＝4.15）という4つのDP項目において、健康栄養学部は、法学部と経営学部両学部の間で有意差が見られる。健康栄養学部は、法学部や経営学部より、高いDP達成度を得たと読み取れる。

一方、上記同じ4DPを巡る達成度について、法学部や経営学部や、スポーツ科学部及び国際リベラルアーツ学部の間で、有意差が見られない。また、「異なる価値観を尊重し、複数の言語で周いと意思疎通・協働する力がついた」においても、学部間で有意差が見られない。

表２　学部別DPの達成度に関する一元配置分散分析

	全体	法学部		経営学部		健康栄養学部		スポーツ科学部		国際リベラルアーツ学部		F/p	多重比較
		M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD		
学んだ知識・技能を用いて、社会の問題解決に活かす力がついた。	4.10	4.01	1.00	4.07	0.85	4.55	0.96	4.00	0.82	4.10	0.93	4.276、p=0.02	健康＞法、経営
計画・立案・協調・行動する力や挑戦する力がついた。	4.19	4.08	0.98	4.19	0.78	4.62	0.92	4.30	0.82	4.19	0.89	4.481 p=0.001	健康＞法、経営
異なる価値観を尊重し、複数の言語で周囲と意思疎通・協働する力がついた。	4.02	3.96	1.07	4.05	1.00	4.09	1.05	4.60	0.52	4.02	1.05	1.204 p=0.307	差異なし
自己を理解し、適切な目標を設定し、達成するまでやり抜く力がついた。	4.19	4.14	0.97	4.15	0.86	4.62	0.89	3.80	0.92	4.19	0.90	3.746 p=0.005	健康＞法、経営
ものごとを批判的に吟味・検討・改善する力と自己管理をする力がついた。	4.17	4.10	0.98	4.15	0.82	4.57	0.92	4.10	0.88	4.17	0.90	3.089 p=0.015	健康＞法、経営

第４部　大学学習全体の有用性について

本学での学習全体は、「自分の目標に身につけること」「自分が打ち込みたいことを見つける」にきっかけになったのかという観点から、本学の教育（学習全体）の有用性について尋ねたところ、「当てはまる」「やや当てはまる」の割合を合算すると、約7～8割の卒業生が本学の教育を肯定的評価している。特に、健康栄養学部の卒業生は、他の4学部と比べて、大学教育の有用性をより高く評価しているとうかがえた。

(1) 自分の目標に身につけるきっかけになったことから見る大学教育の有用性

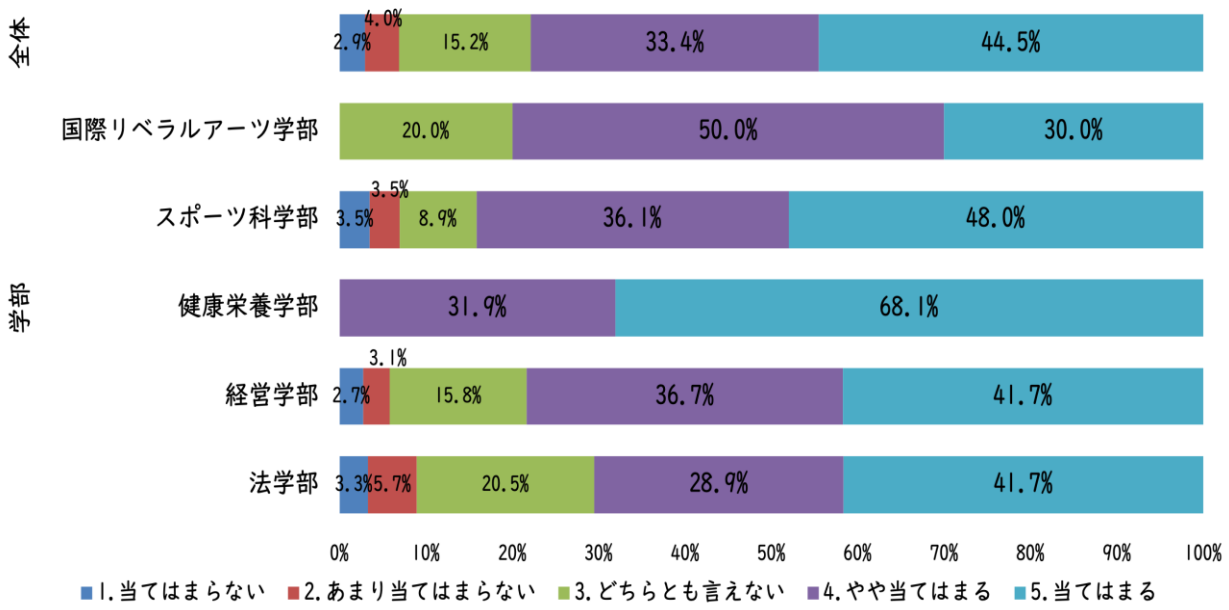
- **全学部で見た大学学習全体の影響（図４）**

本学での学習（授業や活動等）は、自分の目標を見つけるきっかけになったのか」を尋ねたところ、「当てはまる」と回答した卒業学生は全体の44.5%で最も多く、次いで「やや当てはまる」（33.4%）、「どちらとも言えない」（15.2%）、「あまり当てはまらない」（4.0%）、「当てはまらない」（2.9%）の順であった。「当ては

まる」「やや当てはまる」の両者を合わせた割合は77.9%となり、10人のうち約8人の卒業生は本学の授業や活動が、自分の目標を見つけるきっかけになったと肯定な評価をしていることがわかった。

● **学部別に見た大学での学習の影響（図４参照）**

学部別による差があるかどうかについて、カイ2 乗検定を行ったところ、統計的有意差が検証された。「当てはまる」「やや当てはまる」と回答したのは、健康栄養学部が最も高く100%となり、次いでスポーツ科学部84.1%、国際リベラルアーツ学部80.0%、経営学部78.4%、法学部70.6%の順となった。特に、健康栄養学部の卒業生は、他の4学部と比べて、大学教育の有用性をより高く評価しているとうかがえた。



注：カイ2乗検定　p＝.001

図４ 大学の授業や活動は、自分の目標を見つけるきっかけになった

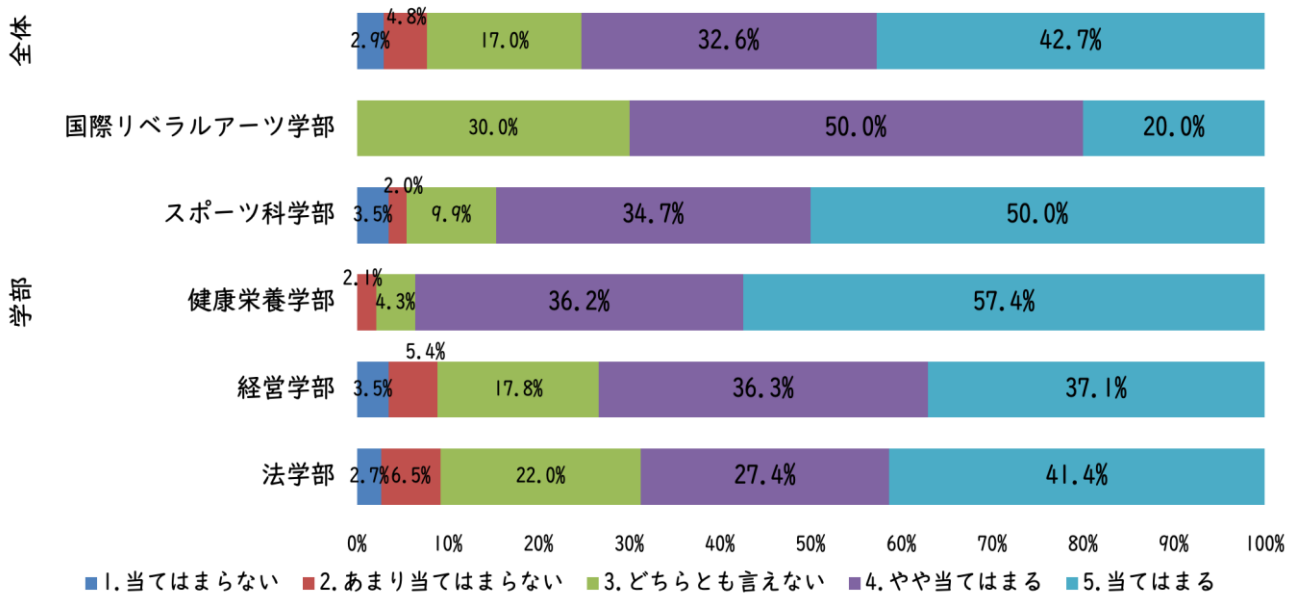
(2) 自分が打ち込みたいことから見る大学教育の有用性

● **全学部で見た大学学習全体の影響（図５参照）**

本学での学習全体（授業や活動等）は、自分が打ち込みたいことを見つけるきっかけになったのか」を尋ねたところ、「当てはまる」と回答した卒業学生は全体の42.7%で最も多く、次いで「やや当てはまる」（32.6%）、「どちらとも言えない」（17.0%）、「あまり当てはまらない」（4.8%）、「当てはまらない」（2.9%）の順であった。「当てはまる」「やや当てはまる」の両者を合わせた割合は75.3%となり、10人のうち約7人の卒業生は本学の授業や活動が、自分が打ち込みたいことを見つけるきっかけになったと肯定な評価をしていることがわかった。

● **学部別に見た大学での学習の影響（図５参照）**

学部別による差があるかどうかについて、カイ2 乗検定を行ったところ、統計的有意差が検証された。「当てはまる」「やや当てはまる」と回答したのは、健康栄養学部が最も高く93.6%となり、次いでスポーツ科学部84.7%、経営学部73.4%、国際リベラルアーツ学部70.0%、法学部68.8%の順となった。健康栄養学部の卒業生は、依然として他の4学部と比べて、大学教育の有用性をより高く評価しているとうかがえた。



注：カイ2乗検定　p＝.001

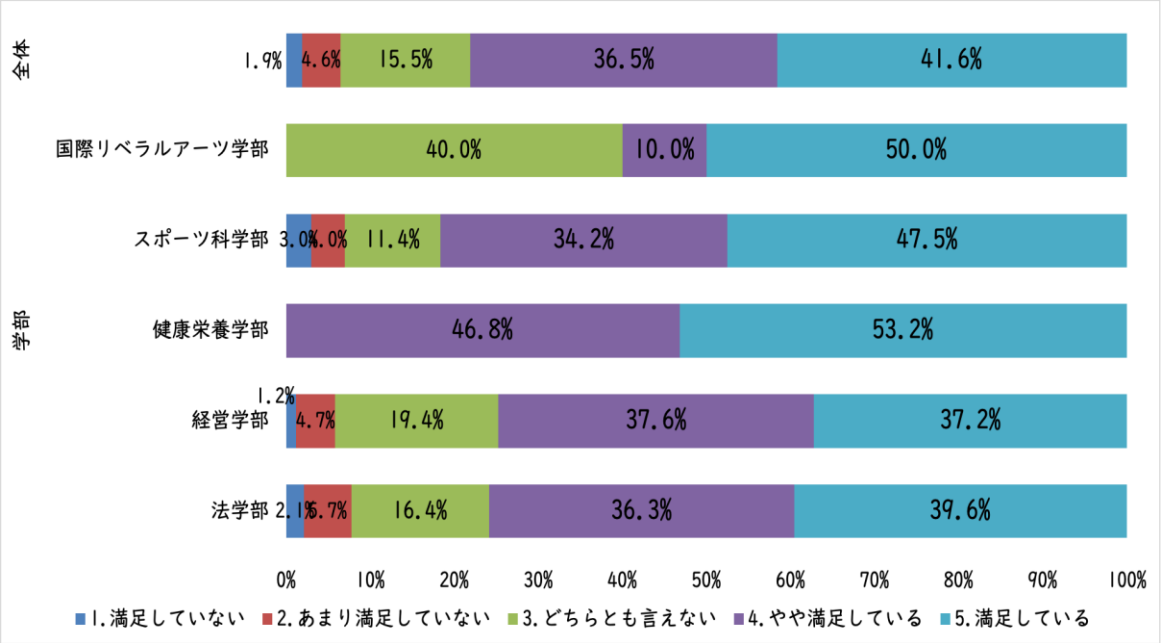
図5　大学の授業や活動は、自分が打ち込みたいことを見つけるきっかけになった

第５部　本学の総合評価と愛着度について

(1) 大学教育への満足度

図６は「卒業生から見た大学満足度」を示した横棒グラフである。本学の教育全般に関して、「満足している（41.6%）」「やや満足している（36.5%）」と回答した卒業生を合わせると、78.1%の卒業生が本学の教育に肯定な評価をしていることがわかった。学部別で見ると、学部間で差がある。健康栄養学部が 100.0%で最も高く、次いでスポーツ科学部法学部 81.7%、法学部 75.9%、経営学部 74.8%、国際リベラルアーツ学部 60.0%の順となった。一方、学部別改善の余地の観点から見ると、「どちらとも言えない」と回答した卒業生は、国際教

リベラルアーツ学部が40.0%で最も高く、次いで経営学部19.4%、法学部16.4%、スポーツ科学部11.4%の順となった。

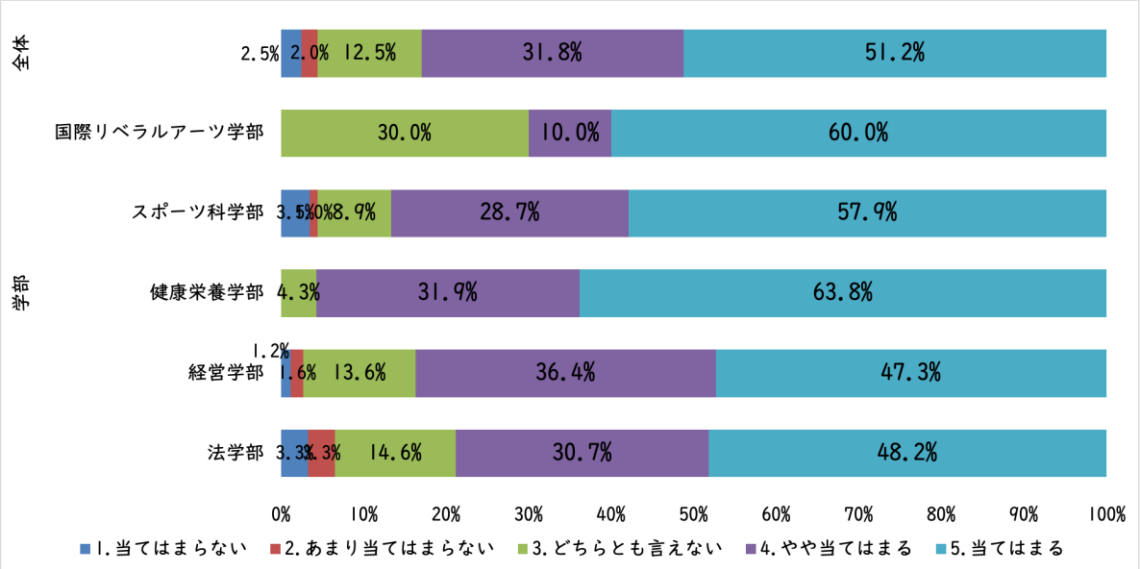


注：カイ2乗検定　p＝.012

図6　卒業生から見た大学教育の満足度（全体と学部別）

(2) 本学への投資価値

◆　山梨学院大学に入学してよかったと思える卒業生の比率

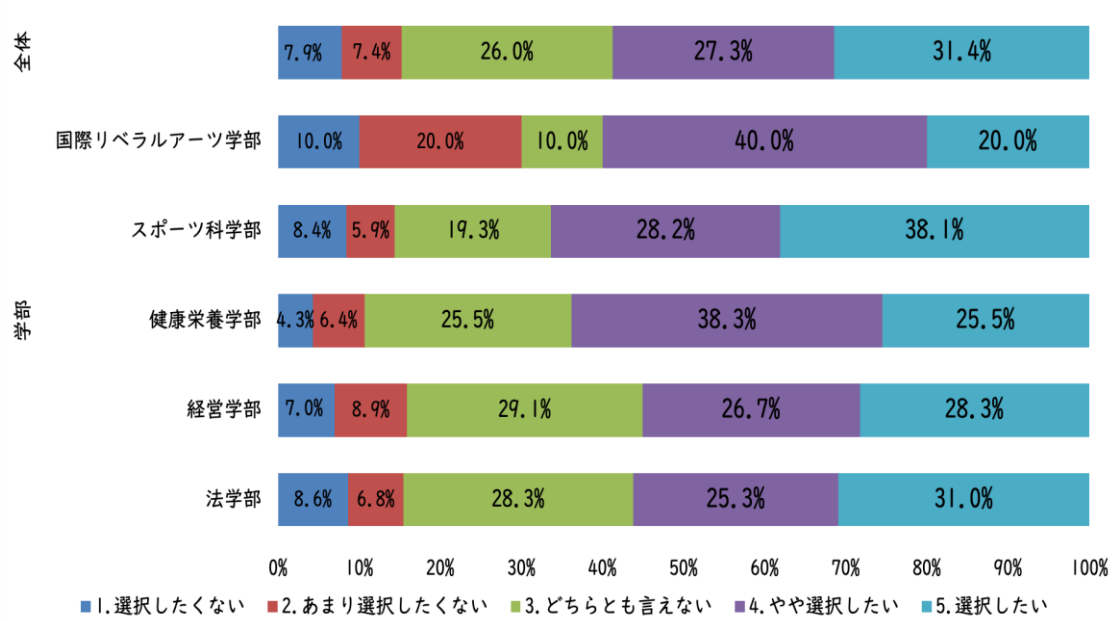


注：カイ2乗検定　p＝.039

図7　本学に入学してよかったと思える卒業生の比率（全体と学部別）

78.9%の卒業生は、山梨学院大学に入学してよかったという肯定な評価をしていることがわかった。学部別に見ると、特に健康栄養学部（95.7%）の卒業生は他の学部より高く評価している。

◆　仮に再度選択できるならば、同じ大学を選択したいか



注：カイ2乗検定　p＝.262

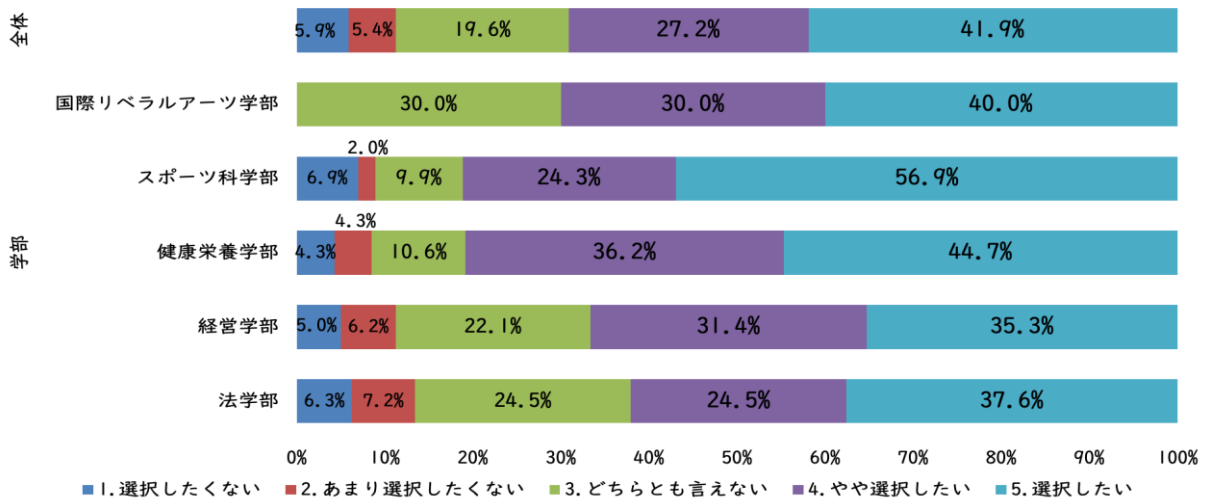
図8　仮に再度選択できるならば、同じ大学を選択したいか（全体と学部別）

再度 18 歳時点に戻ることができると仮定したら、同じ大学を選択するか尋ねたところ、「選択したい」（31.4%）と回答する卒業生が最も多く、次いで「やや選択したい」27.3%、「どちらとも言えない」26.0%、「選択したくない」（9.9%）、「あまり選択したくない」（7.4%）の順となった。「選択したい」「やや選択したい」を合わせると、本学を再び選択すると回答した卒業生は約 6 割となった。学部別に見ると、学部間の差が検証されなかった。

◆　仮に再度選択できるならば、同じ学部を選択したいのか

他方、同じ専門分野を再度選択するか尋ねたところ、「選択したい」（41.9%）と回答した割合が最も多く、次いで「やや選択したい」（27.2%）となった。両者を合わせた割合は 69.1%となり、10 人のうち約 7 人の卒業生は自分の専門選択に後悔がなく、本学が取り組んでいる専門教育に肯定な評価をしていることがわかった。

学部別による差があるかどうかについて、カイ 2 乗検定を行った結果、統計的有意差が検証された。特に、スポーツ科学部（81.2%）と国際リベラルアーツ学部(80.9%)という両学部からの卒業生は最も高く評価しているとうかがえた。

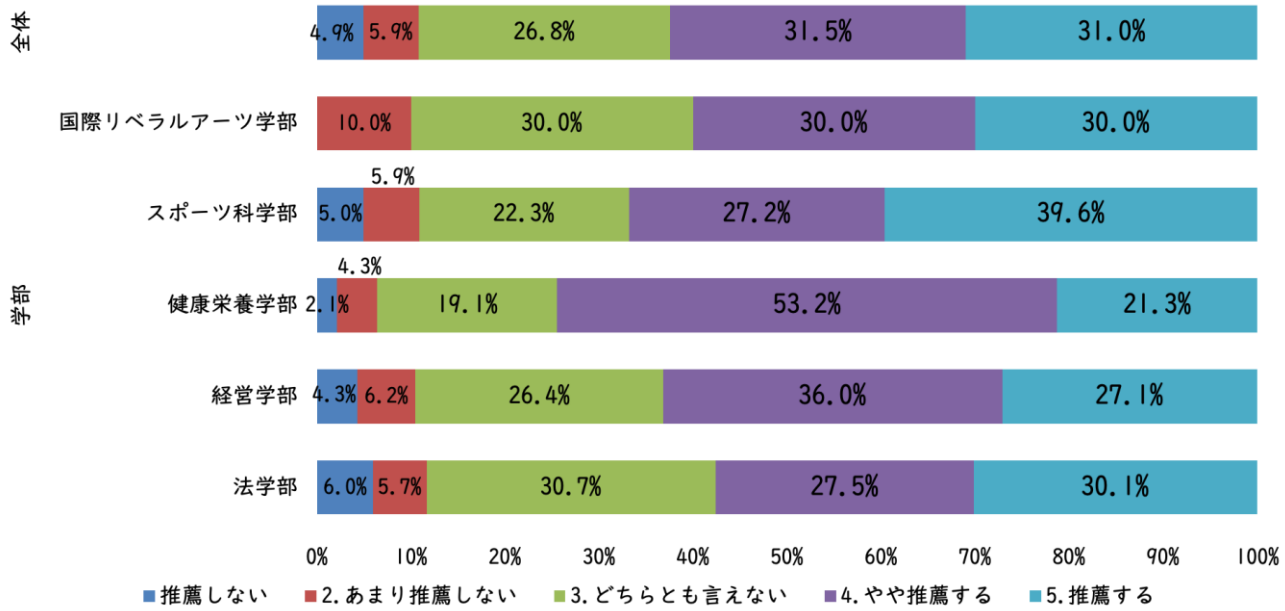


注：カイ2乗検定　p＝.000

図9　仮に再度選択できるならば、同じ学部を選択したいのか（全体と学部別）

(3) 本学への愛着度

本学への進学を他の人に推薦するか尋ねたところ、「やや推薦する」（31.5%）と「推薦する」(31.0%)と回答した割合がほぼ同じ多く、次いで「どちらとも言えない」（26.8%）となった。両者を合わせた割合は 61.5%となり、10 人のうち約 6 人の在学生は母校に愛着度を持ち、他人に自分の母校への進学を推薦する可能性があると推測される。学部別による差があるかどうかについて、カイ２乗検定を行った結果、統計的有意差が検証された。特に、健康栄養学部では、他人に自分の母校への進学を推薦する可能性は 74.5%となり、他の４学部より高い愛着度を持っているとうかがえた。



注：カイ2乗検定　p＝.012

図10　大学を後輩や周りの知り合いに推薦したいのか（全体と学部別）

令和4年度
山梨学院大学　卒業時調査

発行日付：2023年3月
発行部署：学習・教育開発センター
作成担当：潘秋静
倉澤一孝
協力部署 ： 教務課

山梨学院大学
YAMANASHI GAKUIN UNIVERSITY